

Europe Indicators

発表日: 2022年10月19日(水)

欧州経済指標コメント: 9月英国消費者物価

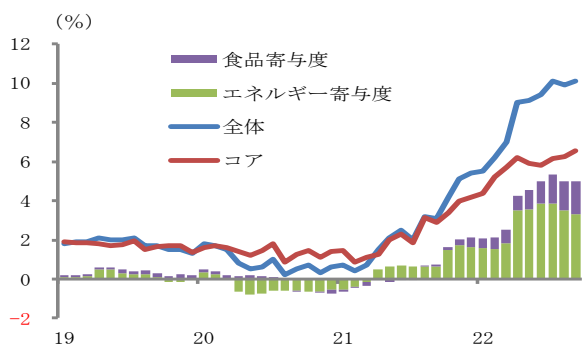
～政策Uターンで物価高止まりのリスク～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 9月の英国の消費者物価は前年比+10.1%と前月(同+9.9%)から再加速し、40年振りに2桁台に乗せた7月に並んだ。ガソリンの上昇加速の一方によりエネルギー(前月: 同+52.0%→今月: 同+49.6%)の上昇率がやや鈍化した一方、食料品(同+13.1%→同+14.5%)、食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除くコア物価(同+6.3%→同+6.5%)の上昇率が加速した。
- 今月のコア物価の上昇加速を牽引したのは、衣料・履物(同+7.6%→同+8.5%)、家財道具(同+10.1%→同+10.7%)、医療(同+2.6%→同+3.5%)、外食・宿泊(同+8.7%→同+9.7%)など。原料費高騰の波及や、経済活動再開による需給逼迫を背景とした値上げが影響。
- トラス政権の政策転換により、11月3日のMPCの利上げ幅は0.75%にとどまると予想。目先の利上げペース急加速のリスクが後退した一方、利上げ局面が長期化するリスクが新たに浮上。今回の政策転換により、10月から2年間の家庭向けエネルギー料金の凍結は半年に短縮。ここから資源価格が大幅に下落したり、政府が追加の負担軽減措置を導入しない限り、来年4月以降にエネルギー価格が再上昇する。消費者物価は10月に前年比+11%近くでいったんピークアウトするとみられるが、政策転換の影響で高止まりするリスクが出てきた。

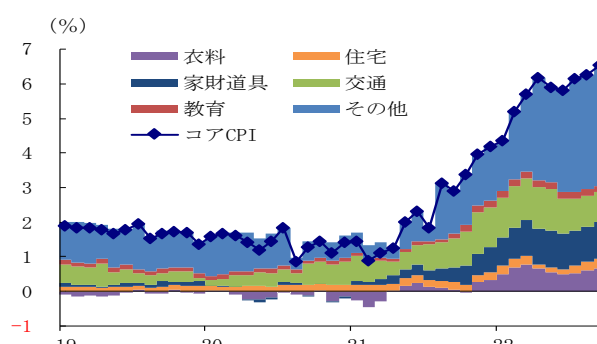
■英国: 消費者物価の推移 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所: 英統計局資料より第一生命経済研究所が作成

■英国の消費者物価 (%)

■英国: コア消費者物価の要因分解 (前年比)



注: コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所: 英統計局

		2021				2022											
		4Q	1Q	2Q	3Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
消費者物価	(前期比)	2.2	1.4	4.3	1.9	0.7	0.5	-0.1	0.8	1.1	2.5	0.7	0.8	0.6	0.5	0.5	
	(前年比)	4.9	6.2	9.2	10.0	5.1	5.4	5.5	6.2	7.0	9.0	9.1	9.4	10.1	9.9	10.1	
コア消費者物価	(前年比)	3.9	5.1	6.0	6.3	4.0	4.2	4.4	5.2	5.7	6.2	5.9	5.8	6.2	6.3	6.5	
食料品	(前年比)	2.6	5.1	8.3	13.4	2.5	4.2	4.3	5.1	5.9	6.7	8.6	9.8	12.6	13.1	14.5	
アルコール	(前年比)	2.3	1.8	1.3	2.9	2.7	3.0	1.4	1.5	2.5	1.2	1.7	1.2	2.8	2.9	2.8	
たばこ	(前年比)	4.7	6.0	8.2	8.2	6.8	4.8	5.1	5.7	7.1	7.8	8.5	8.3	8.1	8.1	8.3	
エネルギー	(前年比)	24.1	24.5	54.1	53.1	25.6	24.5	23.2	22.7	27.6	52.1	52.8	57.3	57.8	52.0	49.6	
住宅用燃料	(前年比)	23.0	23.6	69.9	70.1	23.2	22.7	22.9	23.1	24.8	69.6	69.9	70.2	70.3	69.7	70.1	
自動車燃料	(前年比)	25.6	25.6	35.6	34.1	28.5	26.8	23.6	22.3	30.7	31.4	32.8	42.3	43.7	32.1	26.5	

注: 消費者物価の前期比は季節調整前。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所: 英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

